

- *ヨハネの福音書7章は主イエスが仮庵の祭りに行かれるときのことが書かれている。仮庵の祭とはユダヤの3大祭り(過越、七週、仮庵)の一つで、イスラエルの民が、エジプトを出て40年間荒野をさまよった時、粗末な小屋(テント)に住んだが、神様の恵みによって守られたことを記念するものである。イエスの兄弟たちは、イエスに、祭りに一緒に行っておあなたが神の御子キリストであることをイスラエルの中心であるユダヤ(実際はエルサレム)であらわすように言う。それは、イエスを信じていない言い方であった。「そこでイエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。」(7:6)
- *「時」は神が造られたが、ギリシャ語で「時」を表す言葉に二つある。一つは、「クロノス」。一定の長さをあらわす「時」。継続する時間、期間ということができる。もう一つは「カイロス」で、「クロノス」の中のある特定の時、最もふさわしい時、機会と言う意味である。伝道者の書の3章にこの意味の「時」が並べられている。「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある。」(伝道者の書3:1~2)すべてのことは神様が決められた時に成るのである。
- *主イエスが「私の時はまだ来ていない」と言われたのは、父なる神様が定められた「時」、この場合特別に重要な時のことである。それは「父よ、時が来ました」(ヨハネ17:1)と言われたように、「十字架の時」をあらわす。今兄弟たちと一緒にエルサレムに行けば、神の計画された時が狂ってしまう可能性があった。イエスの時は仮庵の祭の時ではなく、過越の祭のときでなければならなかった。しかし、実際は、イエスは、こっそりとご自分ひとりでエルサレムに上り、神殿で話をされている。そのときはまだ、時が来ないことを知っておられたのであろう。
- *私たちにも「時」がある。神様の特別なご計画がある。いつかはわからないが、特別な恵みを与えてくださる「時」がある。中でも一番の「時」は、救われる「時」である。神の「時」を信じて、委ねて待ち望みながら生きたい。